

県勢発展に尽くした功績をたたえる

平成18年度 沖縄県功労者表彰式

県は、11月3日、平成18年度沖縄県功労者表彰式を那覇市内のホテルで開催し、受章者の親族や関係者など多数の出席の下、各部門で功績のあった10名の方々に稲嶺県知事から表彰状と功労章を贈呈しました。



 地方自治部門 うえばら かめいちろう 上原 亀一郎さん (80歳) 糸満町議会議員、糸満町長、沖縄県議会議員を歴任し、多年にわたり地域や本県の抱える諸課題解決に精力的に取り組んだほか、沖縄キューバ友好協会会長として県系人との交流に尽力した。	 体育・スポーツ部門 わくがわ こうせい 湧川 幸盛さん (80歳) 多年にわたり沖縄空手・古武道連盟会長及び沖縄県指定無形文化財保持者として伝統空手の保存継承に尽力した。
 地方自治部門 しやう ひろこ 尚 弘子さん (73歳) 県内初の女性副知事として女性行政の推進や厚生年金の格差是正等に尽力したほか退任後は、沖縄県公安委員会委員長、沖縄科学技術研究基盤整備機構運営委員を歴任するなど、県勢の発展に貢献した。	 社会福祉部門 ざきみ かずのり 座喜味 和則さん (79歳) 多年にわたり沖縄県遺族連合会会長として、組織の育成強化を図り、糸満市摩文仁の各県慰霊塔の建立や対馬丸遭難者処遇の問題解決などに尽力した。
 教育部門 おどわら こと 小渡 ハル子さん (78歳) 多年にわたり那覇市婦人連合会及び沖縄県婦人連合会の活動をとおり、女性の地位向上、青少年の健全育成、高齢者支援に尽力した。	 社会福祉部門 にしひら もりひろ 西平 守廣さん (78歳) 多年にわたり沖縄県歯科医師会会長として、2年制沖縄歯科衛生士学校の開校や離島における重度心身障害児全麻酔下治療などに尽力した。
 教育部門 あしとみ はつこ 安次富 初子さん (76歳) 沖縄県庁初の女性管理者として、女性団体やその指導者を育成したほか、退職後は、沖縄県女性の翼の会会長などを務め、男女共同参画社会作りなどに尽力した。	 産業経済部門 さきま あきら 崎間 晃さん (74歳) 琉球銀行代表取締役頭取及び那覇商工会議所会頭として地域の商工振興に尽力したほか、沖縄県経済団体協議議長などを歴任し、本県経済の発展に貢献した。
 文化部門 てるきな ちやうし 照喜名 朝一さん (74歳) 多年にわたり琉球古典音楽の研鑽を積み国指定重要無形文化財「琉球古典音楽」保持者(人間国宝)として、その保存・継承に尽力した。	 一般篤行部門 もろきた たつお 諸喜田 達雄さん (79歳) 多年にわたり大阪沖縄県人会連合会及び財団法人大阪沖縄協会の要職を歴任し、在阪県人の生活向上などに尽力するとともに、沖縄と本土の懸け橋となって本県の振興に貢献した。

お問い合わせ 県秘書課 TEL:098-866-2080 FAX:098-860-1453 県秘書課ホームページに詳しい情報を掲載しています。

第3回沖縄平和賞 ~沖縄の心を世界へ~ 沖縄・ラオス国口唇口蓋裂患者 支援センター受賞

2年に1度、沖縄と深い関わりのあるアジア・太平洋地域の平和構築などに貢献した個人や団体を顕彰する沖縄平和賞。今回は、県内の団体としては初めて、「沖縄・ラオス国口唇口蓋裂*患者支援センター」が受賞しました。

*口唇口蓋裂とは、口唇(上くちびる)や口蓋(上あご)が生まれつき裂けている病気をいいます。



沖縄平和賞授賞式

十月十三日、名護市の万国津梁館で「第三回沖縄平和賞授賞式」が開催され、ラオス国の教育副大臣や駐日ラオス大使、駐日ベネズエラ大使など多くの出席者が見守る中「沖縄・ラオス国口唇口蓋裂患者支援センター」に賞状と賞牌、副賞一千万円及び記念品が贈られました。

主催者を代表し、稲嶺知事は「平和賞を通して、沖縄がアジア・太平洋地域の平和交流拠点となることを目指している」と挨拶しました。

受賞者を代表して仲真会長は「私たちの活動をラオス国全土に広げ、ラオス国民の幸せと豊かさにつなげたい」と述べました。



仲真良性 会長

式典では、沖縄盲学校中学位の上地翔子さんによる平和へのメッセージ「絆」の朗読や、県内各地から寄せられた折り鶴の贈呈なども行われ、平和を愛する沖縄の心が再認識されました。また、受賞者記念講演では、ラオス国における活動状況が砂川元顧問により紹介されました。

沖縄・ラオス国口唇口蓋裂患者支援センターの活動

支援センターは、県内の歯科医師と琉球大学医学部との連携により設立され、二〇〇〇年から中国やベトナムで医療援助を開始。翌年から、ラオスで口唇口蓋裂患者に対する無料手術や技術移転などの医療支援活動を行っています。

無料手術は、医療スタッフ約十人が医療機材や薬剤などを持参し、現地に十日ほど滞在して行われます。一度の滞在で二十〜三十人の患者を治療しており、ラオスでは、これまでに百二人の患者が無料手術を受けています。技術移転は、国立セタティラート病院の協力の下、現地の医師やスタッフと手術を行うことで進めています。支援センターの努力がきっかけとなってラオス国の医療技術が確立され、また、沖縄とラオスの友好関係が深まる事が期待されます。



手術を終えて喜び親子と砂川顧問

お問い合わせ 県平和・男女共同参画課 TEL:098-866-2500 FAX:098-866-2589 http://www.pref.okinawa.jp/heiwasuishin/

